

オール沖縄・日本共産党衆議院議員 沖縄1区選出

あかみね政賢 国会だより

月刊 No.19

【九州沖縄ブロック事務所沖縄分室】
〒900-0016 那覇市前島3-1-17
電話.098-862-7521 FAX.098-862-7735

【国会事務所】〒100-8981 千代田区永田町2-2-1
衆議院第一議員会館1107号室
電話.03-3508-7196 FAX.03-3508-3626



政府を追及する赤嶺議員

19日の同委員会では、相次ぐ米軍犯罪を追及。在日米軍が対策を強化した今年10月以降も計26件の事件が発生していたことを明らかにし、日米地位協定の抜本改正を要求しまし

石破政権との初の本格論戦の場となった臨時国会。赤嶺政賢議員は県民の平和とくらしの願い実現に猛奮闘しました。
12月12日の衆院安全保障委員会では、米国で墜落寸前で緊急着陸したオスプレイについて、原因も再発防止策も不明なまま飛行再開を容認した政府の対米従属姿勢を追及。同機の全面撤去を求めました。

さらに辺野古新基地建設で、政府が8月に着手した新たな護岸工事(A護岸)が、3年10カ月で約千本の金属製の杭を打ち込む計画に對し、11月末で29本にとどまらざることを暴露。「この区域だけで」15年以上かかる「完成まで12年」という政府の計画は絵に描いた餅だ」と指摘し、新基地建設の撤回と普天間基地の即時・無条件撤去を迫りました。

臨時国会 石破政権と初の本格論戦 県民の願い実現へ猛奮闘



沖縄予算増額を要請する県議・国会議員

同日の憲法審査会では、「国民の多数が改憲を求めている中で、改憲につながる憲法審査会は動かすべきではない」と堂々と主張。

さらに与党過半数割れの新たな国会情勢を生かし、11月27日にオール沖縄の国会議員でつくる「うりずんの会」と県議会与党派の合同で、12月10日には日本共産党国会議員団で、沖縄関係予算の増額を政府に要請しました。



日曜日の朝早くバスケットの試合を申し込まれた。自宅の横には私の義弟作成のバスケット

ゴールがある▼ジージーは琉球キングス。孫は千葉ジェッツ。孫の動きはすばしっこい。スリーポイントも決めていく。勝負は僅少差で千葉が勝った▼最近ゴルフにも夢中。医療生協の地域班主催のボウリング大会にも参加した▼孫と一緒にいる時間が長いオバーさんは「日中動き回っている」とあきれ顔だ▼地域に同じ年頃の子どもがいないので、孫の相手は年寄りばかり。少子化社会を恨みつっ、孫の挑戦に苦戦している。

米兵の少女暴行に抗議 県民大会に二五〇〇人が結集



米兵の少女暴行に抗議する県民大会

る県民大会が女性団体を中心とする実行委員会主催で開かれ、二五〇〇人が参加しました。メイン会場の沖縄市民会館のほか、名護、石垣、宮古島の各市にサテ

ライト会場が設置され、全国各地でも連帯する集会が行われました。主催者挨拶をした伊良波純子さん(女団協会長)は「基地から起きる事件事故の防止と事件が起きた場合に被害者を守り加害者を処罰することは日米両政府の責任」とし、「大人に課された役割は少女を一人にしないこと、子どもたちに安心安全な日常を約束する」と訴えました。

登壇した二人の大学生は米兵犯罪を二度と繰り返させないために不平等な日米地位協定の改定を求め、声を上げようと呼びかけました。集会には、赤嶺政賢衆院議員をはじめ、オール沖縄の県議・国会議員も参加しました。

米兵による少女の誘拐と性的暴行事件に抗議と再発防止を求め

玉城デニー知事は「今なお多くの県民が不安の中で基地と共存させられているということを出しているかなければならない。軍そのものの構造的な責任も求めていきたい」と語りました。

この間の活動

- 沖縄連婦人部協議会総会で挨拶(同30日)
- 建交労沖縄県本部第26回定期大会で挨拶、JA真和志で赤嶺政賢激励会を開催(12月1日)
- 九州沖縄地区農協青年組織連絡協議会から豪雨災害についての要請を受ける(同2日)
- 山梨革新懇の集会で講演(同6日)
- 辺野古ゲート前で行われた県民大行動に参加(同7日)
- 瀬長美佐雄県議、吉居俊平名護市議、伊佐真次村議と北部農地被害調査(同8日)
- 国連人権デーシンポジウムに参加(同10日)
- JAおきなわ中央会からうりずんの会でさとうきび価格・政策確立に関する要請を受ける(同11日)
- #コドソラから「普天間基地周辺の子どもの安心安全な学校環境を求める要請」を受け、懇談(同12日)



- 島ぐるみ糸満の集会で講演(同14日)
- 沖縄に連帯する神奈川のついでに講演(同21日)
- 米兵による少女暴行事件に抗議と再発防止を求める県民大会実行委員会と外務省沖縄事務所、沖縄防衛局に要請(同23日)

あかみね政賢 市議・国会議員35年の実績・足跡(14)

沖縄を再び戦場にするなと岸田首相を追及

衆院予算委員会で普天間基地の無条件撤去を岸田首相に要求

岸田政権の敵基地攻撃能力の保有は、沖縄をアメリカの対中戦略の最前線基地にするもので、沖縄が戦場になることを前提に自衛隊基地の強化が計画されています。2月の予算委員会では、岸田首相に対して「沖縄を再び捨て石にするな」と厳しく迫り、戦争放棄を約束した憲法9条にもとづく平和と外交への転換を強く訴えました。

11月の予算委員会で、辺野古新基地建設を強行する岸田首相を追及しました。辺野古の住民が今でも年平均2130回の米軍機の騒音に苦しめられていることを明らかにし、基地のたらいまわしでは問題は解決しないと、普天間基地の無条件撤去を求めました。ところが政府は新基地反対で頑張る玉城デニー知事の権限を取り上げ、代執行を強行しました。民主主義も地方自治も破壊する行為です。政府の横暴を徹底的に追及して頑張ります。

最高裁の不当判決に屈せず、知事を支えて頑張ります

戦争の準備ではなく、平和の準備こそ求められたい

辺野古新基地建設に伴う設計変更申請をめぐる裁判で、最高裁は沖縄県の上告を棄却しました。私人の権利救済を目的とした行政不服審査法を乱用し、国が国を救済する手法を是認する不当判決です。国策に追従した今回の判決は、三権分立をみずから放棄するもので、到底受け入れられません。玉城デニー知事は「辺野古新基地断念を求めるという意思に全く変わりはない」と表明しています。国策に屈服することなく、新基地建設反対を貫き頑張ります。(『アカミネセイケン国会だより』2023年9月号)

宮古、石垣、与那国、波照間、沖縄本島で軍事要塞化が進行しています。政府は米国の対中国包囲網に追従して、戦争の危機をおおっています。戦争の準備ではなく、平和の準備を。憲法9条をいかに平和と外交への転換が今こそ必要です。(『アカミネセイケン国会だより』2024年1月号)

*「35年の実績・足跡」は、今回で終了します。